

稲沢市学校施設整備基本計画説明会

日時 令和7年2月22日（土）
午前10時～午後1時00分
場所 祖父江中学校屋内運動場

1 教育部長あいさつ

2 稲沢市学校施設整備基本計画について（事務局から説明）

3 質疑応答

Q 祖父江 男性

今回の計画に反対で白紙撤回をお願いしたい。理由は審議不十分で手続きに不備があるから。この計画は短期間で審議を打ち切って強行採決をされたと聞いており、民法第1条の信義誠実の原則に反するので無効だと思っている。また、児童生徒数の資料は説得力がない。祖父江町の大半は調整区域で分家住宅なども転用手続きを経ないと家が建てられない。そうした中で人口が流出している現状があり、児童生徒数が減るのは当たり前だ。今回、市長は選挙で調整区域に家を建てやすくすると公約され、年末年始にかけてパブリックコメントも募集されたので、すべての地区が公平に家を建てやすくなるように意見を提出した。今後全庁横断的に取り組み、稲沢市の人口が増える、家が建てやすくなる、そういった方策が盛り上がってくると思う。私は、この後の10年間、そういったことを試してもらって、10年後に策定委員会を開いて、生徒数がどうなったかを確認したうえで、協議をして方向性を決めてほしい。それくらいの余裕はあると思うがどうか。

2つ目は、学校教育法第16条で保護者は子に9年の義務教育を受けさせる義務を負うとしている。「保護者は」であって、児童ではない。その主人公の保護者全員にアンケートなどで意向を聞かずに計画案を作るとは何事かと思う。教育委員会が実施したアンケートの中身は目的が学校再編・統合のためのもので、現状維持という選択肢がない。そんなアンケートがあるのか。私はそういった意味で、保護者、それから児童も対象にアンケートを実施し、意見を聞いていただきたい。

3つ目は、学校教育法施行規則第41条で小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とするが、地域の実態、その他特別な事情があるときはこの限りでないとされている。これは、中学校にも準用される。各学校が地域の中で、いろいろと特色ある学校づくりのため努力をされてきた。コミュニティスクール構想の中で、一生懸命頑張っている。私は、今まで続けられてきたこうした取り組みをしっかりと吟味の上、なぜ方向性を決められないかと疑問に思う。教育にお金がかかるの

は当たり前で、国が乱れているときにはまず教育を充実させる、これが鉄則だ。このことをしっかりと踏まえて対応していただきたい。

最後に、この資料の11ページから16ページに事務局が視察した学校の写真が掲載されているが、先ほど、計画策定は令和5年度からと聞いた。予算の執行状況も気になるので、いつ訪問されて、いつ作成されたかということをお聞きしたい。

A 事務局

1つ目の強行採決ではとの御質問については強行採決ではないと考えています。計画案は最初令和6年3月の定例教育委員会に提案させていただき、そこで教育委員に採決していただく予定でしたが、教育委員からもう少し検討する時間が必要とのご意見をいただきました。そこで継続審議とし、その後教育委員による2度の自主的な検討会や令和6年7月定例教育委員会での修正案の検討などを経て、令和6年8月の定例教育委員会で修正案を御承認いただきました。御承認いただく際にも8月定例会で採決することについて、教育委員から採決を取らせていただきました。教育委員からは議論は尽くされたので、8月で採決すべきとのご意見が多数であり、その結果、令和6年8月定例会で計画案が賛成多数で承認されたものです。したがって、強行採決ではないと考えております。

2つ目の人口増加対策の成果を10年程度見守ってからの判断でも間に合うのではないかというご意見ですが、今から10年間そのままに、10年後に再度、再編・統合を進めるべきかどうか検討し直してさらに数年費やし、そこから校舎棟建築のため最短でも7年はかかる。そうしますと、場合によっては20年以上先になりますが、そこまで老朽化した校舎棟が持つかという、難しいと考えています。本計画は、来年すぐに建て替えるという話ではなく、老朽化した校舎棟を建て替えるタイミングで、学校再編・統合を進めていくというものです。ここで貴重な10年間を費やすのは得策ではないと考えています。もちろん、人口増対策は、学校再編・統合とは別に、市全体で総力を挙げて取り組んでいかなければなりません、それと学校施設の整備とは分けて考えていく必要があると考えています。

3点目のアンケートを保護者全員から取るべきだったのではないかというお話ですが、計画案策定の際に実施した保護者アンケートでは、小学校低学年を代表して小学2年生、高学年を代表して小学5年生の保護者全員と、未就学児童を代表して年中の保護者全員からアンケートを取らせていただきました。今日の説明資料にもありますように、調査対象数としては3,000件以上を対象に実施しており、保護者が学校再編・統合や学校施設整備についてどのように考えてみえるかを把握する上で、十分な調査であったと考えています。

教育にお金がかかる、かけるべきというご意見もいただきました。私ども教育委員会も行政機関の一部ですので、まったくお金のことを考えなくてもよい訳ではありませんが、本計画の目的はお金のためではなく、子供たちにとってより良い教育環境を整備していく、そのための計画ですのでご理解ください。

最後の、計画資料に掲載の瀬戸市立にじの丘学園や小牧市立小牧南小学校の写真について、いつ学校を訪問したのかというご質問ですが、にじの丘学園は令和5年8月、小牧南小学校は令和5年の秋頃だったと思いますが、訪問させていただいています。また、資料の作成は今年に入ってから作成しております。

Q 山崎 男性

強行採決はなかったとの答弁だが、令和6年8月の定例教育委員会の議事録を見ればわかるが、明らかに強行採決だ。私は当事者で、その場にいたからわかるが、本来1回の定例会でこの計画を可決する予定だった。しかし、教育委員から時期尚早との意見が出て、継続審議になった。それから、8月まで、5人の教育委員が集まっていろいろ協議し、今の時代2.5キロを子供たちに歩かせるのは大変だということで、5人の教育委員が修正案を提出することに合意した。5人が合意した内容は、直線で半径 1.5 キロ、上限を実距離で2.5キロとする案で、上限というのは、直線で1.5キロなので、交通事情の悪い場所を迂回する場合もあるから。そうすれば、既に 2.5 キロ歩いている児童との整合性もとれると思う。2.5キロ歩かなければならない児童も少数あるかもしれないが、この修正案でどうですかと定例教育委員会に提出した。ところが事務局は修正に応じなかった。これで強行採決でいいと言い切れるのか、再度答弁を求めたい。

もう1点、今後10年待てないという答弁があったが、あるべき姿から基本計画策定まで10年ほどかかっている。この間に、なぜ人口対策、祖父江地区の振興対策をやってこなかったのか。こんな利便性の高い地域はない。他市では人口対策をしっかりと、インフラ整備、人口対策、工場誘致、そういうものをしっかりとやって減少がそれほど大きくないところもある。何もやらずに、祖父江町は人口がどんどん減ってきた。だから、畳みます。これは理屈にならない。10年の間に人口対策をやっていれば、これだけ子供の数も減らなかったと思う。だから、10年間凍結して、今後の市の取り組みを見ていく、そういう意見も当然あると思う。今の2点について答えてほしい。

A 事務局

1点目の強行採決については受け取り方の違いかと思います。一度議事録を見ていただければ結構ですが、先ほど担当が説明したように、採決についても教育委員に諮り、教育委員からもこれ以上審議を尽くすことがないので採決しようというご意見が複数あり、その結果、賛成多数でご承認いただいているものです。通学支援の考え方も含めて提案し、ご承認いただいているので、事務局としては強行採決ではないと考えています。一度、議事録をご確認ください。

それから、義務教育と学校のあるべき姿から10年、人口減少対策を何もやってこなかったのではということですが、子育て支援を充実させ、人口減少対策をやっていこうということで、給食費や保育料、子ども医療費について無償化したり、半

額支援をしたりと様々な取り組みを進めています。では、成果が出ているのかというと、確かに人口減少に歯止めがかかっていないのは事実です。しかし、先ほども申し上げましたように、これだけお子さんが生まれてこない、合計特殊出生率も回復しない中で、これから10年を費やして、10年後に期待する成果が表れないとなると、その間にさらに施設の老朽化が進み、本当に大変なことになってしまいます。今日の資料の1枚目の計画策定の背景と計画の位置づけというところの、下から2つ目の所に記載しています稲沢市の最上位計画であります稲沢市ステージアッププラン第6次稲沢市総合計画の中の次世代のための行政改革、公共施設の再編というところに記載していますが、次の世代に負担の先送りをしない、今までどおりのサービスを続けることよりも、10年、20年先の本市の姿を見据えて時代に合った施設へと見直していくことこそが、行政の真の姿だというように、ここに記載しています。将来的な学校施設、児童生徒数の状況を見ながら、今できることをやっていくことが大切だと我々は考えています。

Q 地区不明 男性

質問の趣旨と異なる回答をするのはやめてほしい。給付金を出しているのに成果がないと言っているわけではない。今すでに住んでいる人に対して恩恵が得られる施策を言っているのではなく、人口増など地区全体の発展につながる施策をしてこなかったのではないかという質問だったと思う。

それから、徒歩通学距離の上限2.5キロについて、資料に2.5キロと明記されているため、2.5キロはもれなく徒歩だと読み取れる。一律2.5キロではないというのであれば、誤解しないように記載したほうがいいと思う。

今、真夏の気温が40度になることもある中で、1年生の子がランドセルを背負って2.5キロ歩くと想像してこの距離を決めたようには思えない。現状で2.5キロ歩いている児童がいるからというが、今実際に2.5キロ歩いていることが大変なことだと認識を改め、適切な距離が何キロかを考えるべきだと思う。

Q 領内 男性

通学支援について、距離だけでなく柔軟な対応、例えば熱中症アラートが発令されたときには、1.5キロでもバスを出すなど臨機応変に対応をお願いしたい。

計画にある仮称地域協議会は法律に基づくものではなく、教育委員会が独自に設置しているもの。したがって、地域協議会で様々な事項を協議し、地域の合意形成を図るとしているが、法的な権限がない地域協議会が合意形成をしても、法律上の効力が弱い。教育委員会に学校の設置や廃止の権限があるというのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第21条に規定があるから。そこで提案だが、学校施設整備基本計画策定委員会に設置要綱があったように、地域協議会も設置要綱を定めて、協議結果を関係する稲沢市の部課に対して引き継ぐというようなアウトプットをはっきりさせてほしい。近隣の愛西市やあま市も策定委員会

を設置しているが、あま市の設置要綱では教育委員会に意見を述べるとはっきりしている。愛西市も教育委員会に提言するとなっている。稲沢市の場合は、アウトプットの記載がない。策定委員会も法律的に権限がなく、計画案を教育委員会事務局が教育委員会に議案として提案するやり方をしている。それは法律に基づく行政ではないと思う。地域協議会設置要綱を定め、その中に、対象地域や保護者の過半数の同意を得たときに協議会は発効するというような文言や、協議会は地域住民の過半数が賛成したことをもって設置する、また、協議結果を関係の部課に引き継いでいくという文言が必要だと思う。そういうことがなぜできないのか。

2点目は、計画に「標準規模」というのがある。稲沢市の場合は、24 学級までが標準規模だが、令和6年度に24学級なのは稲沢東小学校しかない。23小学校のうち1校だけが24学級なのに標準規模と言えるのか。学校教育法施行規則第41条は小学校も中学校も12から18学級が標準規模になっているが、稲沢市は中学校だけ12から18学級(事務局注:稲沢市の中学校の標準規模は6学級から18学級)を標準規模にして、小学校は12～24 学級とする合理的な理由があるのか。保護者アンケートで1学年3学級、4学級を希望する方も多かった、それだけで24学級を標準規模としているのか。そうであればおかしいと思う。24学級も標準というのであれば、祖父江は1校または2校ではなく、1校になってしまう。

もう一つ、議会だより2月号には、学校再編について考えてもいいといった意見が一定数生じたら理解と納得を得たと判断するとなっているが、計画の記述と異なっている。計画では、先程教育部長があいさつで述べられたように、「地域住民、保護者に丁寧に説明し、理解と納得を得る」と記載している。しかし、議会だよりの2月号の20ページの議員の質問に対する回答では、一定数あったら考えたらいいよと。再編について考えるということに一定数の理解が得られたら、それが理解と納得を得たというのはちょっと変だと思う。計画に従って、理解と納得を得ることをこれからやっていただけるのか確認したい。そうでないと、一定の意見があったら、理解と納得を得たということで進んでいってしまうと危惧している。

A 事務局

一つ目の地域協議会について設置要綱を整備してはどうかというご意見ですが、地域協議会は地域の皆さんと協議させていただく場、そこで出た意見を吸い上げる場ですので、その設置に法的根拠までは必要ないのかなと考えています。そこで出た意見に対しての最終的な決定者は、学校の設置者としての市や、学校教育について所管する教育委員会ですので、法的な意味ではそこでの決定を経て正式なものになります。協議会はあくまでもその前段階として、地域の皆様からいろいろなご意見を言うていただく場としてご理解いただければと思います。

2つ目の稲沢市の標準規模について合理的な理由があるのかというご質問ですが、国が12学級から18学級としている基準に対し、稲沢市では小学校も中学校も独自の基準を導入しています。稲沢市の標準規模は平成26年に稲沢市教育委員

会が公表した「稲沢市の義務教育と学校のあるべき姿」で、国の基準は12～18学級ですが、稲沢市では何学級がいいのかということを教育委員に検討していただきました。その結果、小学校は12学級から24学級、中学校についても6学級から18学級とそれぞれ独自の基準にしています。これは小学校も中学校も1学年が2学級以上あることが大切と考え、このような基準としているものです。

3点目のご質問については教育部長から答弁させていただきます。

A 事務局

先ほどあいさつの中で述べさせていただきました、理解と納得を得るということにつきましては、議会でも何度も各議員からご質問をいただいているところです。なかなかすべての方から理解と納得を得るということは非常に厳しいと思います。しかし、学校施設が古くなった、子供たちが減ってきた、こういう状況について、地域の人からどういう学校にしたらいいのか話し合ってはどうかといった意見が一定数出てきたら、ある程度そういう方が増えてきたら、仮称地域協議会を作って、そこで話し合ってください。そう考えています。

Q 大塚 男性

私は教育委員会の定例会や策定委員会の傍聴をずっと続けてきた。先ほど強行採決という話があったが、強行採決かどうかは別として、十分な議論と意見の合致はなかった。それは、決定前に地域の声を聞いていないから。教育委員会の姿勢は、決めてから説明すればいいという姿勢が一貫していたと思う。感想まで。

私は説明を全体説明会と先週の千代田地区、そして今日の祖父江と3回聞いている。説明内容は嘘ではないが、大事なことが話されていないと思う。一つは、32校全部建て替えると1千億円かかるという点だ。1千億円と聞いて皆さん大変だと思われる。しかし、1千億円の根拠について質問すると、1校あたり30億円かかるかと仮定し、1千億円としているという回答で根拠が曖昧だった。もう1つ、この計画どおり統廃合したらいくらで収まるのかと質問したが、それは計算できないとの回答だった。つまり、これを進めても1千億円を超えるかもしれない、1千億円より少なくなるかもしれないという計画で、私は根拠が曖昧ではないかと思う。

もう1点、資料に素晴らしい学校の写真が数多く出てくる。これを見ると、稲沢の学校はこう変わるんだ、いいじゃないかと私も思う。しかし、文章をよく読むと、写真の横には必ず、計画しますという言葉で終わっている。つまり、決定ではない。これから計画しますという程度の言い方だというのが問題だと思う。

最後に一つ、標準規模について、令和5年度の3月議会で、標準規模については教育学的に有意であるという学説はあるのか、研究はあるのかという質問に対して、教育部長は「教育成果に基づいたものではない」と答弁している。つまり、標準規模は子供にとっていいという決まりは、教育学的にはない。昨年度、祖父江で「奇跡の小学校の物語上映会」があって参加した。その中で、福祉大学の山本先生

も、「12学級以上18学級以下が適正であるという研究はない。1学級の定員が変われば1学級になったり2学級になったりするのでは、学級数で適正規模を考えるのは全く無意味だ。」とおっしゃっている。そういう意味では、あるべき姿の学校規模は全く無意味な発想だと思う。子供たちにとってどんな勉強が必要なのか、何人ぐらいがいいのか、私は欧米のような20人位の小さな規模の学校が必要だと思う。

A 事務局

まず、1千億円の根拠が曖昧ではないかということ、それから新しく建て替えた場合の費用が精査されていないのではないかとのご意見ですが、計画には、質問者がおっしゃられたように、概ね1校 30 億円程度と仮定し、すべて建て替えた場合は1千億円以上かかると記載しています。この1千億円を記載している意味合いとしては、稲沢市の財政力ではすべての学校を建て替えることができない、もちろん物価高等の影響で1千億円以上かかることもあると思いますが、いずれにしてもすべて建て替える財政力はないということ、今後学校施設整備を考えていく上での前提条件としてお示ししているものです。したがって、数字の妥当性を議論する話ではなく、すべて建て替えることができる財政力がないということ、正しく理解していただければいいのかなと思います。学校再編・統合した場合に新しく建てる際の費用については、建てる時期、建てる学校の規模によって金額は変動しますし、新しく学校用地を購入していくのか既存の市の施設の跡地を使うのかによっても変動しますので、現時点で正確な試算をお示しすることができないと答弁させていただいたものです。

2つ目が、資料に写真が出ていたような施設が、計画すると言っているだけで本当にできるのかというご質問でした。まったく同じものができるのかというと、当然学校規模によっても違ってきますので一概には言えませんが、稲沢市も計画に記載の内容で施設整備を進めていく考えです。今年度設計を終えて、来年度から新しく建て替えを進めていく予定の大里東小学校も、写真で見ていただいたような、ゆとりある教室や図書館を中心にしたレイアウトであったり、全館空調であったり、今日ご紹介したような多目的トイレや児童も使用できるエレベーターなどが整備される計画で進めています。

A 事務局

最後の標準規模が学術的に有効なものかという点につきまして、確かに議会では、具体的な研究成果に基づいたものではないとお答えさせていただきました。そのあと、もう1度質問がありましたので、その際に、研究成果がないのではなく、「研究者間で合意された統一的な見解はない」という趣旨だということで訂正させていただきます。

Q 長岡 女性

以前説明会の参加者から、少人数クラスでいじめは起きない、クラス替えで解決

にはならないのでクラス替えは必要ないという意見があった。しかし、現在、少人数クラスでもいじめは起きている。実際なかなか教室に行けていない子がいるという現状がある。いじめの解決は加害者側の問題があり、なかなか難しいが、不登校の解決はクラス替えが第1歩になるのではないかと私は考えている。お互いが、物理的に距離を置くことも必要だと思う。それが不登校という形で距離を置かなくても良くなるのが、一番望ましい形ではないかと思う。少人数クラスと小規模校は違う。休み時間に遊ぶ相手、内容、授業等でのグループ分け、運動会、遠足、発表等の学校行事、児童等の人数が少なければ少ないほど子供たちの選択肢が少ないと今実感している。これは、少人数クラスだからではなく、小規模校だからだと思う。できるだけ早く統廃合を進めていただき、少しでも多くの子供たちにたくさんの選択肢を与え、たくさんの友達とたくさんの経験をさせてあげられることを切に願っている。

あと一つ、説明会について、先日友人が複数のお母さま方と話し合いをする機会があった。その時に、どんな説明があるのかは気になるが、子供を連れていくのは難しいという意見があったそうだ。オンラインで見られるといいよねという話もあった。昨年9月に稲沢市からのLINEで稲沢市学校施設整備基本計画を策定しましたとPDFが送られてきた。私も見た。全50ページあった。以前行われたアンケートの回答資料もあり、たくさんの内容が書いてあったのを読んだ。この小学校統廃合で、その小学校に通っているであろう子供たちは低学年だと、今1歳から3歳くらいの子たちがいる。それくらいの子供をみている保護者が全50ページの資料を読みこむというのはなかなか難しいことだと思う。私ももうすぐ2歳になる子供がいるが、しっかり読むのに数日かかった。もちろん文字でも見たいので、紙やPDFの資料はこのままにしてください、せつかく稲沢市のYou Tubeチャンネルがあるので、質疑応答を含む説明をライブ配信したり、あとから見たり聞いたりできるようにアーカイブに残していただけたらと思う。行かないではなく、行けない保護者のためにも検討いただきたい。

Q 領内 女性

私も先ほどの方と同じ意見で、このような説明会をYou Tube配信していただきたい。実際に小さい子たちを見ている親にこういう説明会をしていただきたいという思いがある。今日私の姿を見ていただくとわかるように、小さい子と一緒にいるとしっかり聞けないので、半分資料を見ながら、半分聞けたか聞けていないかの様な状態なので、会場の後ろを開放していただけると子供を連れてきてもいいのかな、You Tube配信だと家でゆっくり見えるのかなということがある。あと、私の意見としては、個人的に統廃合に反対とも賛成とも言えない。なぜかということ、統合に反対の部分は、祖父江は面積が広く、今の学校の特色や子供の特徴がそれぞれ違うので、統合されることによる不安がある。老朽化のことは心配だ。賛成の部分としては、今ちょうど次に1年生になる子供がいるが、もし子供が友達とトラ

ブルになった時に、クラス替えがないと学校に行けなくなってしまうのではないかなというのがある。実際に新1年生になる子供の学年だけ1クラスになると聞いているので、もしトラブルになった時にどうすればいいのかなという気持ちがある。もし、建て替える、統合して新築するというときに、どのような建物になるのか、教室の内装など具体的にわかるようにしていただけると、とてもありがたい。その理由としては、今新1年生になる子が、トイレを和式も使えるように今練習をさせていたりとか、学校で行うであろう行動、例えば給食当番だったり、水着の着替えだったり、具体的にそういうことを家でさせている。学校の中の様子というか、建物の状態がわかるだけでも、自宅で練習させてからこういう行動があるだろうと予測して、新1年生を迎えさせることができるので、これからもし新築する場合は、親に内部の状況を公開していただけるととてもありがたい。

あと、最初のほうに少子化対策を稲沢市もやっているという話があった。何年前からやっているのか詳しくは私も知らないが、私の市外の友達からは、「稲沢市はいいよね」、「子供のために給食費の補助やおむつの支給をしてもらえるからいいね」という声があり、稲沢の子育てへの取組みがようやく周りにも届くようになったのかなという実感がある。だから、もう少しそういう良い取組みを外に発信していただこうと思う。

A 事務局

小さなお子さんへの対応については、我々も対応を考えればよかったのですが、確かに小さなお子様連れの保護者の方は参加しづらい形だったのかなと思います。You Tube というのは、映像が残り、顔が映ることに対して敬遠される方もおみえになりますし、発言を躊躇されたりすることもありますので、なかなか難しいかもしれませんが、説明会を開催するときに託児サービスを行うなど、検討できることはあるのかなと思いますので、今後の参考にさせていただきます。

それから、施設の整備内容等が具体的にわかると良いというお話をいただきました。新しく再編・統合して学校を新設する時には、地域の皆さんと協議会の場などでどのような学校にしていけるのか、基本構想を作成していきます。その中でどういった設備が学校の中に整備されるのか、地域の方からもご要望をいただきながら基本構想をまとめまして、それを最終的に設計事務所をお願いして形にしていけることになりますので、その段階で地域の方にお伝えしていきたいと考えています。

それから、子育て支援施策、稲沢市では特に子育て・教育は稲沢でということで、東海地区初や県内初の様々な取組みを実施しています。しかし、ご意見にもありましたように、私どももなかなか PR が上手ではないところがあって、せっかくの他市よりも優れた取組みが十分に周知されていないということがございました。そこで、昨年度からシティプロモーション課という部署を新たに設けまして、一生懸命外部への発信にも取り組んでいるところですので、引き続き多くの方に知っていただけるように取り組んでまいります。

Q 祖父江 女性

私は、5人の子供、高校3年生から2歳まで育てている。先ほど他の参加者から地域の理解が大事だという意見があったが、私は3人目を生んだ時に、ご近所の年配の方から、「まあ3人産んだの、1人位死んでも大丈夫だよ」と言われたことがある。それなのに、地域の理解が大事と言われても、私は正直、違和感がある。

上の子から下の子まで小学校に22年間在籍している中で、お姉ちゃんが、全員1クラスだったが、女の子が4人か5人の時があった。その時はいじめで大変だった。なので、クラス替えは必要だと思う。少人数、例えば4人というクラスがあって、中学校に入ると突然大人数になる。その中で、親世代の方はわかると思うが、不登校になったり、圧倒的な人数の中で様々なトラブルがあって、すごく大変だ。

あと、徒歩通学距離の上限が2.5キロであることについて、他の参加者がいろいろと言われているが、暑い中、寒い中でも私の実家では普通に山の上から1時間かけて登下校する人もいた。また、岐阜の山の中とか山を2つ越えてきてとか聞いている。祖父江地区では現在、学校の駐車場まで送迎をしている方も結構多い。そのため、通学距離2.5キロを反対の理由に挙げられてもなと思う。車が前提の祖父江地区なので、保護者送迎する人がたくさんいらっしゃるという前提で、駐車場であったりとか、送迎を前提にロータリーとか考えていただきたいと思う。

Q 領内 女性

住んでいる地区は領内だが、丸甲の小規模園で働いていたことがある。小規模園ではやはり1学年の人数が少なく、なかなか難しい活動があって、活動内容でも苦しいことがたくさんあった。やはりある程度人数が必要だなと感じることも多く、私は統廃合に賛成だ。ただ、急にあまりにも規模が大きい小学校になることは不安だし、また2.5キロの通学も夏の暑い日だったり雨の日は心配なので、この辺りは今後、みんなで話し合っていきたいと思う。岐阜の海津市では小学校3年生から自転車通学が認められているようなので、そのあたりのことも検討していただけたらと思う。ただ、自転車通学はやはり雨の日とかは危険だと聞いているので、スクールバスを出していただけるのならそのほうが良いと思う。予算の関係もあると思うので、そのあたりも今後検討してもらいたい。

私は今、小学2年生と年長の子がいるが、今日の説明を聞いて、正直まだ結構時間がかかるんだと思った。私の子が卒業してからの話だなと思って、うちの子は領内だからいいかもしれないが、児童数推計の表を見ていくと、1クラスが10人だったり9人だったり、この計画の時点でさえ間に合っていない子たちがいると思うが、その子たちは今後どうなっていくのか。もう間に合わない子たちが出てくると思うが、その子たちへの対応はどのように考えてみえるのか、計画案とは関係ないかもしれないが、子を持つ親としては気になる場所なので教えてほしい。

A 事務局

ご質問にありますように、既に1クラスが10名以下の学級が出現しています。教

育委員会が令和3年度に児童数推計を実施した際に、長岡小学校で1学年3人という学級が発生するという推計が出て衝撃を覚えました。これではいけない、計画を早期に策定していかなければいけないということで、我々も決意を新たにしました。元々3人の推計だった学年は、現在は4人の推計になっていますが、次の学年も少ない児童数だった場合、2学年以上で1つの学級を編成しなければいけない複式学級になる、そういう可能性もありました。そうなった場合、学校再編・統合までは長い時間を要し、すぐに対応できなものですから、場合によっては、隣接する牧川小学校や祖父江小学校と校区再編によって統合するような形も考えていかなければならない、そう考えていた時期もあります。結果的に、次の年の児童が少し多かったものですから、現時点で複式学級の基準には該当していませんので、将来建て替えの時期に1校ないし2校に再編する、それまでは校区再編せず、現状のままのとする計画になっています。したがって、学校再編までの間は、施設面では各学校で実施しているトイレ洋式化や長寿命化などは、再編対象地区であっても同じように進めさせていただきますが、1学級当たりの人数が少ないという点は、近隣校との一時的な統廃合は考えていませんので、小規模校としての魅力を生かしながら、その学校に合った学習を工夫しながら進めていただくものと考えています。

Q 領内 男性

元校長、社会教育委員としての経験から言わせていただく。今の説明ではとてもいい話が出てくるので、それいいなと。それから不登校になった場合、人数が多いからいい、これは本当だ。しかし、そんな簡単なものではないこともある。回答は不要なので、聞いておいてほしい。通学距離の問題もあったが、私は15年間毎日、子供たちの登校に付き添っている。その中で感じることは、小学校1年生の子が2.5キロを歩けるのかと実際に歩いて感じる。これを皆さんも経験して、そして議論しなければならないと思っている。今日の説明で「教育委員会」と書かれていると、はっきり決まってしまったことに見えるが、学校教育に携わっている者、まちづくりの方々、これらの合意形成ができていない。社会教育委員であった私どもにもこの情報は流れていなかった。要望だが、計画には「教育委員会」と書かないで「庶務課」と書いてほしい。そのあと、みんなでこれからどうあるべきかをもっと議論すべきだと思う。合意形成ができていない中で進めると禍根を残すのではないかな。それから、学校教育、義務教育というものの目標と目的は別で、小学校、中学校というのは、教科カリキュラム、教科の内容を教えるだけの所ではない。地域との関連、地域振興との大きな関連がある。不登校が出てきたその背景は、社会のきずながとても疎遠になってしまったから。だから、これを何とかしなければいけないということで、文部科学省は地域学校協働活動を進めている。少し読ませていただくと、「地域学校協働活動とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO 民間企業、団体、機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たち

の学びや成長を支えるとともに「地域づくり」、これを目指している」ということである。このことが、市役所に十分理解されていない。いろいろな部課、市長も含めてお話を聞かすが、ここの話が全く通じていない。地域づくりをしないと、もっと不登校が増え、高齢者も大変なことになってくる。安易に、目先のことで学校を統合してしまった場合、それをやってきた市町の様子も調べたが、まちが静かになってしまった。若い人たちが住もうとしないから過疎化が進むという事例もある。そのような市町と、稲沢市の現状がそっくりだ。我々がもっとどういう問題があるのか、市もこれから先の地域づくりということを考えて情報を発信していただきたいし、このことはぜひ議員にもお願いしたい。今まで、議員からこういう問題があるということ、地域住民は聞いていない。今の話は、一朝一夕にできるものではない。これから先のまちづくり、私たちが住みやすいまちをつくるために、学校というのは核になっているということ意見を申し上げて終わらせていただく。

Q 長岡 女性

新しく整備した学校は悪くなる前に予防的修繕するが、既存の学校の劣化については対症療法的に修繕をしているという説明だった。すぐに学校再編が進み、新しい校舎がこの先2、3年でできるわけではないと思うが、今ある学校を直していく計画、悪くなる前に予防的に直していく計画は多少なりともあるのか、心配だ。通っている子たちがいる今の学校が壊れたり、不具合があって子供たちや学校の先生たちに被害があっては困るので、そういう計画があるのか知りたい。

それと、保護者の方にはアンケートを取られているが、今後の計画に対して児童や教職員、実際に学校で過ごしている方たちの意見を反映したり意見を聞く予定があるのかお聞きしたい。地域の方や保護者の意見も大事ですが、一番はその場にいる当事者の子たち。私は2歳になる前の子供がいるが、実際にその子たちがどう思ってどう過ごして、どう楽しく行けるのかということが大事だと思うので、その辺をお聞きしたい。

A 事務局

施設につきましては、建物だけでなく遊具やエアコンなどの設備もそうですが、定期的に点検等を行い、事前に問題があるものについては、修繕を行っています。また、外壁など目視でわかるものについては予防的修繕を実施していますが、点検や目視ができないものについては対症療法的な修繕になっています。

A 事務局

2つ目の児童や教職員からの意見聴取について、例えば学校再編に向けて合意が得られた後に、対象校同士で事前にこういった交流をしていきたいとか、新しい学校にこういった遊具や設備が欲しいかなどを意見聴取することを考えています。他市町でよく行われているのも、学校名や校歌をどうするかなど、児童にとって関りが深いテーマですので、児童に関連する部分について意見を聞いていく考えです。また、教職員の方につきましても、協議会が立ち上がった後、基本構想策

定の段階で携わっていただいて、実際に現場で働いてみえる先生方の意見も反映させながら基本構想を策定していきたいと考えています。

Q 長岡 男性

私は農水省の農村地域の人口減少に直面している地域活性化のプロジェクトを担当し、全国で調査してきた。その中で重要なのは特に人口減少が進んでいる地域においては、小学校がその地域の基盤だということ。先ほど長岡小が将来は1クラス4人のクラスが出てくると説明があったが、そうした深刻な問題は全国至る所にある。13ページの学校を建て替える場合に重視する施策として、安心・安全な施設と充実した教育環境とあり、これは教育委員会が所管されている内容なので結構だが、3つ目の地域交流などの教育以外の機能は地域住民の重大コンセンサスだと思う。小学校がなくなったら、この機能がなくなってしまうということを懸念されている。そういう人が非常に多いということがアンケートにもはっきり出ている。したがって、それに対する対策として、仮称地域協議会には先ほどの質問であったように、法的根拠が絶対必要だと思う。私が回っている中でも、これをしっかりと深刻に受け止める自治体は、きちんと法的な整備を合わせてやりながら進めている。地域協議会である程度の同意が得られればと言われるが、この3つ目の、教育以外の機能をどう実現していくのかが非常に大切だと言いながら、それに対して法的根拠を何も与えないで、相当な合意が得られたら教育委員会はゴーにしますという文面に受け取れる。ここで質問だが、この計画は計画名の下に教育委員会と書いてある。しかし、計画には教育委員会以外の機能も書いてあるので、そうであれば市長部局が連名でこの計画に名を連ね、地域協議会の中の主要な意思決定者として教育委員会と市長部局の総務部長なり誰かが決定権をもって地域協議会に諮問するということを明文化すべき。皆さんが心配なのは自分の地区の小学校がなくなって、教育環境は整備されるが、それ以外の機能、地域を活性化していかないといけない、その機能は今後どう維持されるのかという点だと思う。私の懸念は、学校施設がどう変わっていくかということもあるが、施設そのものよりも地域が存立するかどうか。私が見てきた地方は、そこをなおざりにしたばかりに、人間や建物は残っているけれど、地域コミュニティの維持ができていないという所がかなりある。稲沢市がそうならないことを望むので、きちんと法的位置づけを明記し、合意を得るのにはどういう根拠を与えるかということについての考えを答弁いただきたい。

A 事務局

地域協議会の法的根拠について、策定委員会のように要綱での整備であれば可能だと考えています。今回の計画は学校施設の建て替えが主ですので、教育委員会が策定しました。ただ、再編した後の大きな問題、例えば跡地開発が出てきますが、それは教育委員会だけではできませんので、その際は他の部局も巻き込んで

対処します。それについては、議会の一般質問で市長も答弁していますので、そのように進めていく考えです。

Q 長岡 男性

施設、建物の整備だから教育委員会だという回答で、それはそうだが、地域協議会での最終的な協議内容を教育委員会と市長部局が合同で責任を持って進めるということが明記されれば、皆さんの納得が得られやすいのではないかと思います。質問しているのに、結果的に教育委員会はここだけですという回答では、もう1つのほうはどうしていくのが明確化されない。それに対してどう考えているのか。

A 事務局

計画は、教育委員会が考える学校施設の方向性をまとめたもので、実際に具体化していく際には市長部局も説明会に参加させていただきます。今回は、教育委員会が計画を説明させていただく場ですが、地域協議会を立ち上げた、その後の検討につきましては市長部局も一緒に参加させていただきます。

Q 長岡 男性

教育委員会の要綱だと市長部局が制定するわけではない(事務局注:教育委員会の要綱も決裁権者は市長)ので条例で制定してほしい。条例制定はできるのか。

A 事務局

条例では厳しいので、要綱であればと考えています。

Q 長岡 男性

人口増加策に対して教育委員会はどのような考えなのか。私は新潟の出身で、交通の便を良くすると言って三国峠をぶっ壊して逃げた田中角栄の在所。祖父江に来て50年近くになるが、今のままでは市街化調整区域を撤廃するという考え方が出てこない。山崎校区のあたりに立派な古民家がいっぱいある。私は長岡校区だが、なんであの辺の家が売れないのかと聞いたら、農業を引き継いでくれないと許可が出ないと言われた。そんなことでは、一番交通の便の悪い祖父江は発展しない。山内前町長が各企業の税金を安くしたことがある。私は当時サンキョー毛織にいて、税金が安くなったので黒字になった。本当にすごいことだと思う。そういうことを教育委員会からも全体場で提案してほしい。市街化調整区域は、一宮市とか海部郡ではあまり大きな問題になっていない。学校の統廃合は結果論であって、教育も結果論になってしまう。だから、全体をどうしていくのかということにもっと意見をだしてほしい。市街化調整区域を外す。道路が途中まで来て全然できない。隣の岐阜県では、南北に何本も道路が通って、倉庫とかどんどんできて発展していくのに、祖父江は堤防の道路ですら草刈りもまともにやれずに、トラックが通れないような道路で、そういう所に教育委員会からも意見を言ってほしい。それから地域の特産品、農業にもっと力を入れてほしい。農地が太陽光パネルに変わるのには反対だが、雑種地に建てるのは大賛成。農地法で何反以上じゃないと農業が

やれないとかそういう決まりがあるが、そういうことも撤廃してもらって、簡単に農地を貸すことができるように意見を進言してほしい。教育に関係ないことかも知れないが、特に祖父江に来て感じたことを話させてもらった。

Q 地区不明 男性

私は地方、地域の消滅について非常に危機感を持っている。祖父江町と平和町の面積を合わせると稲沢市全体の約4割、ここに千代田、明治を加えると、面積は約6割で、小学校数の割合も23校中14校で約6割となる。西尾張中央道を境に西部、東部で分けると、中央道の西部は本当に広い。それが統廃合で祖父江が仮に1校、平和、明治、千代田も各1校になると、中央道西部の小学校シェアが13校中4校で約3割となり、教育行政上、このエリアの存在感は圧倒的に縮まる。祖父江に住んでいる私の友人の2人の息子が、祖父江に住むか住まないかという議論をしたときに、小学校がなくなる所になぜ住まなければいけないのかと言って清須と春日井に転出した。残ったのは親だけ。友人は息子たちがそう言っても何も言えなかったと言っていた。若者たちは他地区へ行く。転勤とか、やりたいことがあるから遠くへ行くということではなく、近隣の地区に中央道西部地区を捨てて行く。計画はこれからだが、すでに風評リスクが始まっている。そういったことを、私は非常に懸念している。中央道西部地区の人口は6万人弱で津島市に匹敵する規模だ。それだけの人口規模がある所が、そういう形で住む場所としての選択肢から外れていることが本当に悲しい。稲沢中心部の人から祖父江には行く用事もないし何の関心もないと言われたことがある。もし、そのように考える人が計画を策定すれば、そによってになってしまう。私は50年以上名古屋に通っていたが、名古屋市民からそんなことを言われたことは1回もない。

もう一つ。名駅まで車で約40分、国府宮まで車で40分、歩いて1時間半弱で行く、これは関東地区の平均通勤時間。だから、祖父江の利点は皆さんが考えているより高い。産業振興策を十分打てる。もちろん制約があってできないこともあるが、高速道路が近いし、幹線道路も平地で整備しやすい。そういう利点をもっと活かしてほしい。それを教育委員会に求めるのは無理なので、市長が言っているように、横断的に組織を作ってやるべき。今回の計画はどういった観点で議論されているのか。特に、中央道西部地区の小学校は、祖父江を1校にすれば、最終的に4校になるが、小学校をなくすということは、地域コミュニティもなくなる。私の住んでいる地区もそうだが高齢者が多いので、地区活動にも制約がある。そこで小学校がなくなれば、さらに状況は悪化する。この点について、稲沢市はどう考えているのか。官民一体となって、地域を守る。将来に対して道をつくらないと、子供に対して親は何も言えない。ここに総合計画もあるが、今回の計画をそういった観点で取り組んだのか疑問に感じるので回答してほしい。

A 事務局

この計画は施設老朽化や少子化の中で、稲沢市の学校施設、教育環境をより良く

するという目的でつくりました。1回学校を造ったら、今までにも説明会で言いましたが、100年位使います。造った後で、少子化がさらに進んで学校が維持できない。そういうことを考え、ある程度の学校規模を、今学校施設が古くなっていますので、建替えに合わせて進める考えです。先ほど言われました、西尾張中央道の西部地区についても、人口増加に向け、市を挙げて様々な施策を実施することを市長は考えています。なかなかすぐに成果が出ないので申し訳ないですが、私たち教育委員会としては、子供たちの通う学校をより良いものにしたいと考えています。ただ、学校再編・統合については、これは教育委員会だけではできないことですので、そういう場合には、市を挙げて横断的に進めていきますので、その時は地域の皆様のご理解、ご協力をいただき、地域の意見を聞きながら進めてまいりたいと考えています。

Q 地区不明 男性

人口戦略会議が10年前に衝撃的な数字を発表した。2024年に10年後の数字も発表された。その中に新たに津島市が入ってしまったが、290の消滅可能自治体が10年間で復活している。こういったことを我々は考える必要がある。私は東北の人に稲沢は名古屋に近いだろうと怒られた。そんな所で過疎地と言ってどうするんだと。俺たちは地域を残すために必死だということを言っていた。私の友人は青森出身だが、地元には戻らない。親が亡くなったら終わり。そういった所と、この地区は違う。大都市の通勤距離圏にある。こういったところを官民一体となって守らないと、他の地区に申し訳ない。そう思って頑張ってやっていきたい。

Q 長岡 女性

私も3人の子供がいて、自分の子供たちがどういうふう to 育ってほしいかをよく考える。私が考えるのは、子供が大人になった時の祖父江町、稲沢市、愛知県、日本がどうなるんだということ。私は子供が大人になった時に、まだ住める所であってほしいと思う。それが、学校統廃合を進めてしまうことによって、住めない所になってしまったら、それは子供のためにならないと思う。今、いろいろな問題が起きていて、不登校やいじめなど、そういったことを考えていくことも大切だが、それも成長過程の一つの経験で、自分も不登校を経験しているが、今になってみると経験になったかなと思う。大人になるとあまり大きく感じない。それよりも、祖父江町が学校統廃合をすることで人口が流出し、子供たちが大人になったときに、住めない所になっていたら申し訳ないと思う。そういった観点で、今の子供が大人になった時に、住める土地であることを考えてほしい。

もう一つ、学校は単なる子供の教育機関ではない。地域社会を学ぶ場でもある。例えばうちの子供たちは、学校が終わるとまた学校に行く。子供同士約束して、学校で約束しているからと言って、小学校に集まる。統廃合したら、それができなく

なることを心配している。放課後の子供たちの学校の時間ではないが、子供たちは生き生きした顔をしている。私はなるべくそういった時間を干渉せずに子供たちだけで過ごさせてあげたい。自分の足で行けるところでやってほしい。親が送迎したら、そういうことはできない。子供が自分の足で出かけて、自分たちのコミュニティを作ってほしい。放課後の学校もすごく立派なコミュニティの一つ。大人だけでなく子供たちも地域社会のコミュニティを作っている。そういう自律的な動きを支援する形で学校のあり方を考えていただきたい。学校統廃合したときに、子供たちが過ごす放課後の時間をどういうふうに考えているのか、例えば、今の子供たちは、週4から週7で習い事をしているから、保護者の責任で習い事をさせればいいと思うのか、そういったことについて、どのように考えているのか教えてほしい。

A 事務局

放課後の時間を教育委員会としてどのように考えているかというご質問ですが、学校が統廃合されたとしても、学校がなくなるわけではありません。新しく学校ができたら放課後の時間がなくなるということもありませんので、新しくできた学校を起点にそれぞれ児童が自分たちの新しい環境の中で考えて、新しい学校に合った放課後活動をされるものと考えています。

Q 長岡 女性

私が言いたいのは、距離が遠くなったら自分の足で行けなくなってしまうということ。今は近いので自分で行けるが、学校が一つになると、学校までの距離が遠く、行ける子と行けない子が出てくる。そういった距離の問題は大きくて、子供は基本は徒歩か自転車なので、行けない子が出てくることで、子供が取り残されてしまうのではないかと心配をしている。

A 事務局

確かに学校までの距離は遠くなりますが、今でも祖父江地区の6小学校について、すべての児童が学校に近いかという点必ずしもそうではありません。資料にもありますように領内地区や長岡地区では、それぞれ学校まで2キロ以上の児童がお見えになります。そういう児童が放課後活動をしていないかという点、そういうことはなく、与えられた環境の中で、自分たちで創意工夫して、遊びや学びなどの放課後活動をしています。それが新しく学校になったときになくなるということはないと思います。

Q 地区不明 女性

私が、学校統合の話を聞いて思ったのは、地域コミュニティの崩壊だ。広い祖父江で6校が1校になると、人と人のつながりや地域や学校にあった文化の継承が壊され、新しいものになってしまう。学校編成において学校毎のいろいろな考えを集約することも大変だが、子供たちも地域も大変だと思う。例えば、これを2校ずつ

統廃合して3校にする。そうすればすべて徒歩通学でき、児童の足腰を強くする可能性もあると思う。地域も2つの小学校が一緒になるというのであれば、話し合いもしやすいのではないか。6つの地域を一つにするのは強引なやり方だと思うが、6校を3校であれば、可能性もあると思う。それでも私は反対だが。3校にするという考え方はないのか。

A 事務局

この計画で、祖父江地区は1校ないし2校ということで提案させていただいているのは、祖父江地区において3校で整備した場合、学校によっては1学年2クラス以上の標準規模を満たせなくなる学校が出てくるからです。今日もご意見をいただいた保護者の方々から1学年2クラス以上ほしい、クラス替えできる規模がほしいというご意見がございましたように、教育委員会としてもそのところは大事だと考えています。確かに、3校になると通学距離は物理的に短くなりますし、マイナス面ばかりではないのですが、この計画の基本的な考え方である、せっかく建て替えるのであれば建て替えを機に標準規模になるようにしていきたいという考えに合致しなくなりますので、教育委員会としてはそのようには考えておりません。

Q 地区不明 女性

教育委員会としては説明会で意見を聞いたので、このまま統廃合に向けて進めるということか。それともう一つ、より良い建物のことしか聞いていないが、子供のことが置き去りにになっているのではないか。例えば、数年前に児童クラブを見学したときに、天気が良くて外で遊びたいのに、外では怪我をするから、問題が起きるからと行かせてもらえないとか、場所が不便な所で、トイレの問題もあった。それから、登下校の話も出ていたが、私は、60歳のときに、児童に付いて歩いたことがある。1年生の子は6年生に追いつくために一生懸命追いかけて、涙が出るような登下校を見てきた。地域の中で育ったという話もあった。そういう子供たちの関係は、スクールバスでスーツと通ってしまうとどうなるか。教育はそういうことをちゃんと経験させてほしい。給食も、給食センターから運べばいいというものじゃない。教育委員会としてどうすればいいのか、謙虚にとらえて考えてほしい。

A 事務局

今後の流れとしましては、先ほどご質問された方が言われたようなこれで説明会が終わったから、学校再編・統合に向けてこのまま進めていきますよということではありません。今日の説明会でも、賛成の方もお見えになれば、反対の方もお見えになります。我々といたしましては、学校再編・統合が必要だという考えは変わりませんが、地域の皆様にご理解いただけるように、引き続き説明や協議の場をもうけて行きたいと思えます。来年度以降の進め方につきましては、今日いただいた意見も参考にしながら、考えていきたいと思えます。

Q 女性

3校だと標準規模に満たないので、1校または2校にするという説明だったが、そ

れはまだ決まっていないのか、もう決まったことなのか。

A 事務局

教育委員会の計画といたしましては、1校ないし2校にするということは決まっています。ただし、計画は皆様の理解と納得を得られなければ進めることはできませんので、現段階で1校ないし2校で進めていくということが確定しているわけではありません。

Q 地区不明 女性

3校の場合もあるということか。

A 事務局

計画上は1校ないし2校となっていますので、私どもから3校案を提案することはありません。地域協議会などの場で地域の皆様からご要望としておっしゃっていただいた上で、協議させていただくことはあり得ると思いますが、我々としては1校または2校でご理解をいただけるように進めていく考えです。

Q 地区不明 女性

3校になる可能性を残しておきたいと思う。将来児童数が増えるという可能性を残すということも、私はありかなと思っている。

4 閉会あいさつ(教育部調整監)